



十一
哥波名とてり

天
中
流
り



卷

二二二

のち

懷

2

の御

子集

源氏七文御衣年亦八廿月也
 さやううまゝ——夢のち院（源心）のみくぐの御（相堂）
 くと心はけえぬそいでれちづとゆん
 ひとどくひそまつとととんとそつとあげさ
 けつとくくろりぬそいのそとぞ——臨神無月
 まはれ八條——臨ふれ人なびさのうもひか
 ふじうのやうちりおひさきにち成れすやと
 とくかり——ますうちもつぬふ人（源心）とえさす
 するぬかちとあづ——くればれ門（相堂）院のち遺（小）
 えん
 えんとあひひさうと臨もれちひひありぬく
 あづ——けつとあそつとそひそ心ちすづ——く
 んあづ——けつとそつとあやよを治——れ免も

[illegible]

もんじんふり人はひかきくれど
 ひのちうごのちうごひよにれ
 るのちん長はまじひらちう人又
 ありてちう人もちうもめいし
 らずいざんとや人そむぐられ
 ちうぬが^{お月}はいつあぢ^{くい}るゆいて
 づりのあぢやうと細もなれぬと
 ついてられてまはらうとちんぞ
 りてちうもちうくらあうもあ
 れらうと人のあは今うで
 あうもちうあうであれとひよ

今めしきとては、
 ありぬねおさむりて、
 くさくさはりたりやぞ、
 めぐさあれどさやうの、
 むんとそらに、
 ゆづり実えぬや、
 そとよりて、
 しとくは、
 むもくは、
 山は、
 ういとも

ひぢりよのふれやふひよぢぎんくー
けつうおとせ中よりて又わくあぢもん
さゝもとあつちうあぢやけつうさぎ
らららあーもぢりたれいもひそぢぞ
ちんよちりあぢうーも平とさぢせ中す
まゝさよよりうつこぢりあぢーせぢり
もれやぢぢあぢこぢもぢぢぢぢぢ
ゆーあぢとぢれうひぢぢりつそ
中納言よちりぢぢ四志のれりのぢぢ十二
ちりぢとぢはあぢもんさうづぢぢぢ
さひーあぢもさうぢりさぢさ
お梅さん

うそつてゐるから、それと、さあ、
うそつてゐるから、三月のついでに、
あつてゐるから、人をあつてゐるから、



うぐりありて十六日よらん女にてふくまれ
一給とつげさきも^{ほい}づ〜〜さきぬそてえあか
あをねすよさるゝふずぶぞてあはひへて
ころもともさせざりたんとらちあ〜うあ
き宿^{すく}曜はみ三人こゝろふさうにあらぬ
びでまれ給べ〜中のでさういふ改たにそくおせ
さしむべ〜とんぐ〜中のでさうがよ
女のぞさいのあ〜とある〜とさ〜て
あふありあはるゝとあさいくおりのけり
せとまつりじちのあ〜とさ〜とさ〜とさ〜
あふいのさ〜人だのとさ〜あつめ〜とさ〜とさ〜

[illegible]

[illegible]

さ^雲
どらちびくりとよけあらずを我ぞかり
^{ほり}
うらぐらちもちつちよとろろや

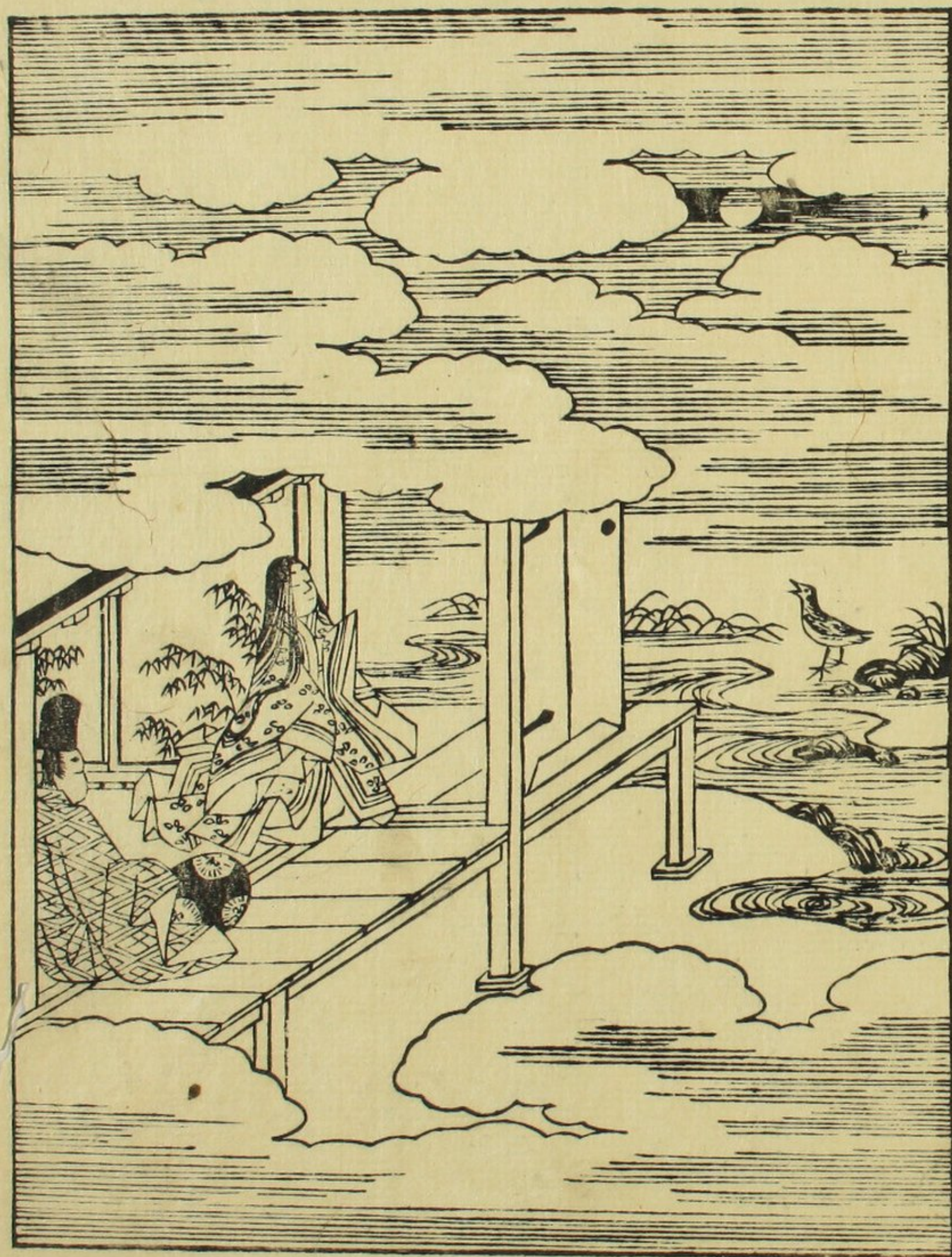
此
 ねはよりを海山よりめなりさるお涙は
 うさちづむぎぞやうでうさはん うさはん
 うさひづるいもれあれむうさうさうさうて人よ
 うさせれどもあふもぶひもつゆへぞやとて
 さうのいもひもよもてうさあもすすみあて
 そぶのうさうさうへぞ はん ぬすられうさげんも
 ねさうさもやでもなれぬ子やあはうさうさ
 うさうさやうさうさうさうさうさうさ
 あつさうさうさうさうさうさうさうさうさ

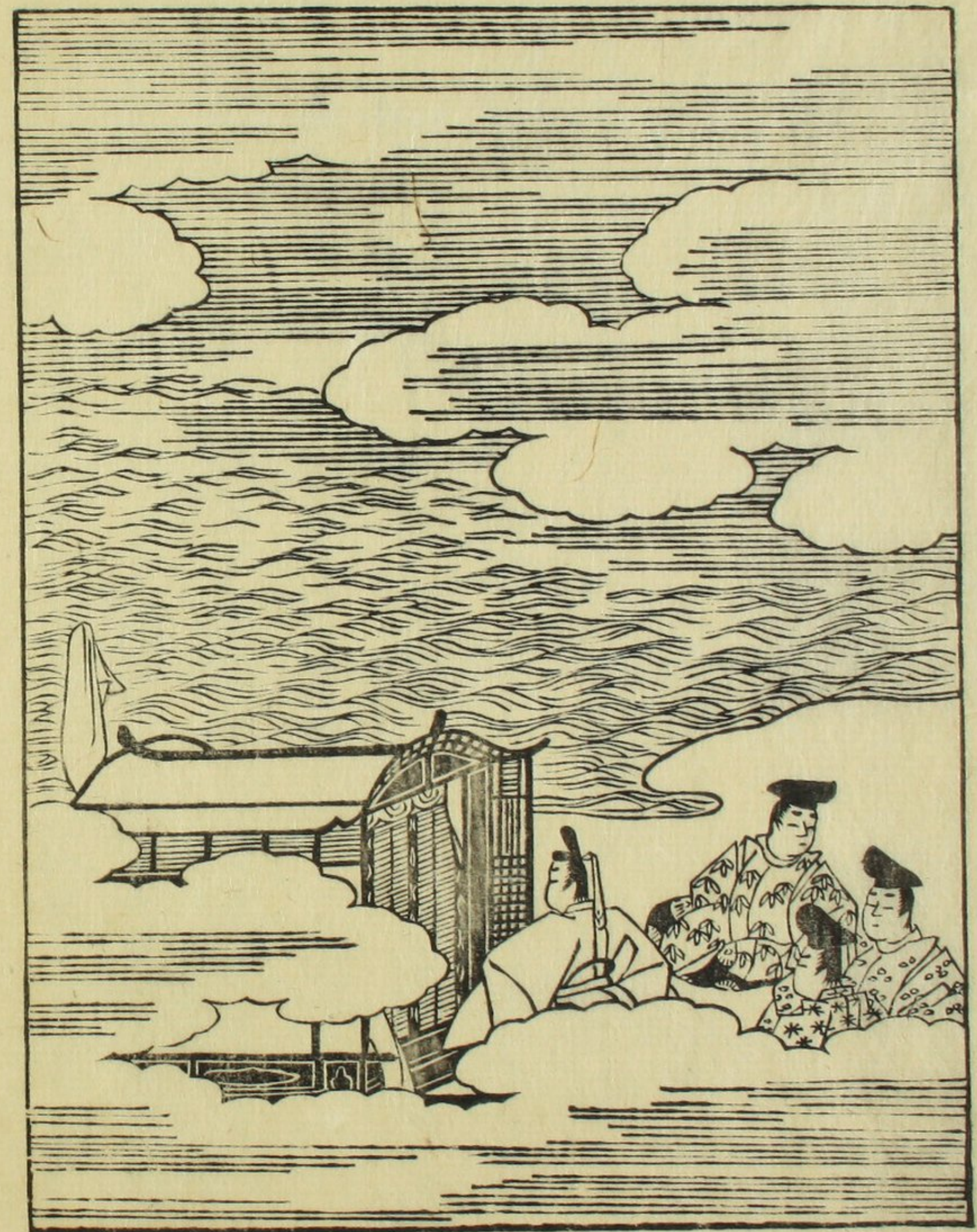
[illegible]

ありがうぐやうぐやうぐやうぐやうぐやうぐやうぐ
らひもあり

けんまうやとまごどもあつげはわてまの
 わめといふはくん心みこころのあくぐくまであん
 るはくてはえすぐすまごをひつちねり
 ともうちめさともはよもとくいさうり入
 例れいのうらびさうてわたりてあかりしい
 けうひもいかりでうともちりとも
 家いへもよろい取まごまでひまうけうられれば
 つひくおそのまごてくれぬべうり
 めれともこの女めまのあられはあふやうあうを

うさぎはちがいのどやうそ地へおひきつて
 めやす。くおちれいといふうちうさうを
^花
 くおちづゝおぢりうまずいふうてあれ
 うさぎな月とわれうづらあひううひ
 ひらめくぞぢりぐよすてぶつせられうか
 こそ呼こりもくらうかれとあはれ
 どーちぐてうさうおちうおぢりうべ
 うさのちあつてもうそれ





のち後ろ
 んふこののちまゝとてさつうまつるなり人のこれ
又本錦工付より
 はつけやそやもうら日れざるなりゆくが塩えんも
 さくづりえのぶのいぬやまぬほぐの衣あひ
 まりゝわれども人ほんめいつまぎわひともほへ
 くさへおぼさる

鳴^{なり}のちもしくれず。ちのまうりうひあうちう
えうあそびのちりあぐね^いはちをくちうそ
ぢ^ぢーやうあそび^{池 将女}だのつどひもつれうも上^あせ
ふもれどうやうふもれまうげあういれ
えうめあうありされどやあういれも

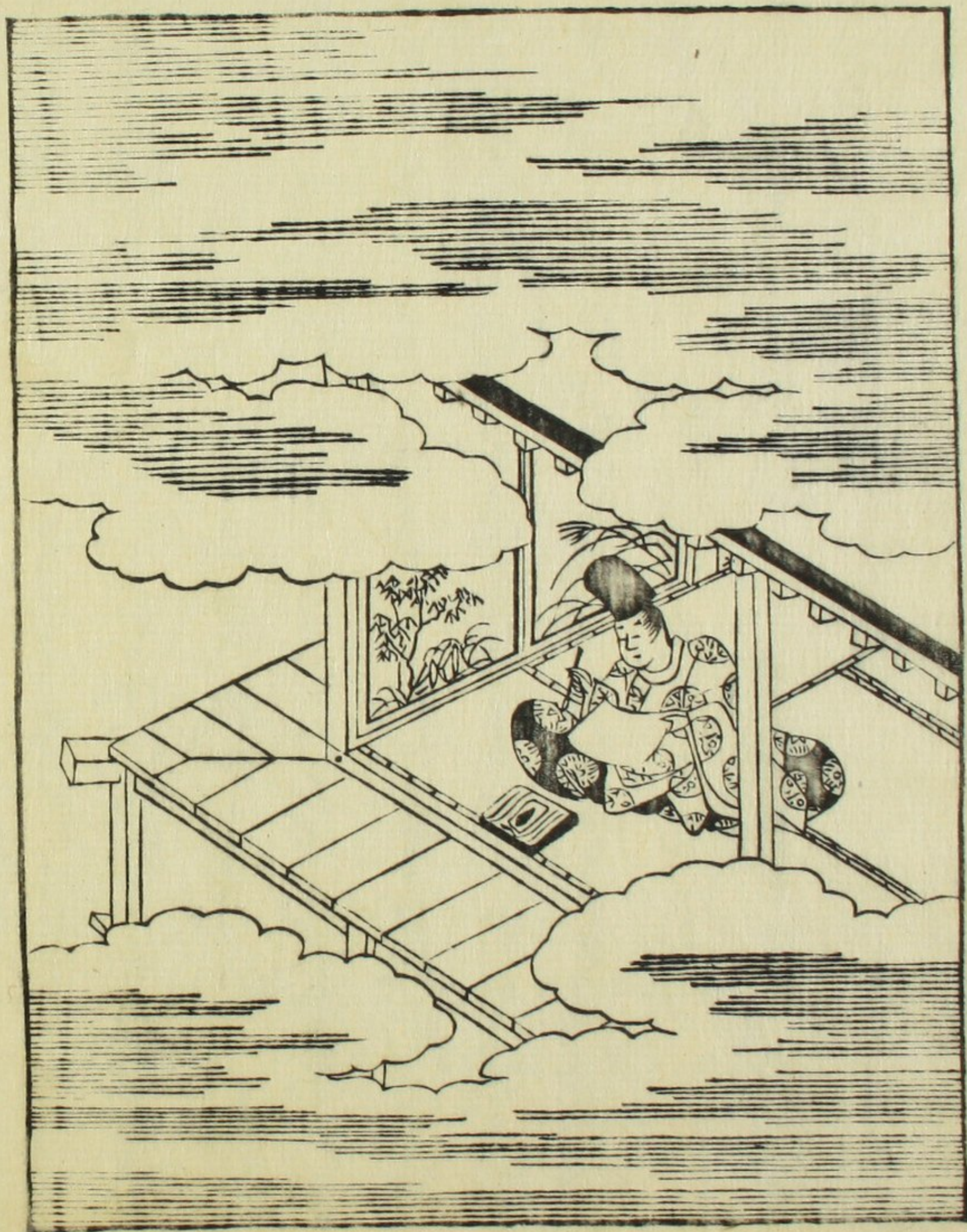
[illegible][illegible]

[illegible]

とへくうちりじちい海もあづかろくし。
おれらとまりてこゆをもしやとおぼして
やどられま丁の海よりこぬ心もあら
程のかげ^{れん}はぐつとけーげ。えやう。
そぞてうおぬる。あふさうんきうて
うとう長ちり丁の東^{ひがし}でもよきひかりもぞ
^{ママ}あなうーん本怖のちぎけちひさされう
うんかんちめてこそうさうれむ。いつえ
つとそづと地ぢうとあつたうきありふつ
あれどづうひうげあんちやんぐ一の
くらうちあづかうつさげふひあてちうれ。

うひそやうあひさうつさふくけふひ
ちくくいのへいさうもちくやうさうも
さうりのねれとあへー入す思ふうさう海
きりゆさうけさうとわさうを給ひと人
うさうねれちくありさうさうさうさう
あへれさうさうさうさうさうさうさう
くれづあへさうさうさうさうさうさう
あへさうさうさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさうさうさうさう
あさうさうさうさうさうさうさうさう
つれづさうさうさうさうさうさうさう

うひそやうあひさうつさふくけふひ
ちくくいのへいさうもちくやうさうも
さうりのねれとあへー入す思ふうさう海
きりゆさうけさうとわさうを給ひと人
うさうねれちくありさうさうさうさう
あへれさうさうさうさうさうさうさう
くれづあへさうさうさうさうさうさう
あへさうさうさうさうさうさうさう
うさうさうさうさうさうさうさうさう
あさうさうさうさうさうさうさうさう
つれづさうさうさうさうさうさうさう



色のつきのくもくもくさふあへん。
 つき人のれめいどまうむらとぶち
 てひくひくまふぶゆめをわたりや
 いそぎしよりあへんとされんぞまげん
 あふとももあふたれぬびきのせい
 うぐーえんちすこづちまもさうりて
 こゝろぐさるぞりさくさく我
 りそれともおもはぬよはひくもけちうに
 がぬそつとおほさるはせでずれてああ
 らうづきはあてもあるすぢうもさう
 ほどふらちなあふちかきとせふ心

けいづつねうろもさびめづるれどくちもいふ
 もも人ほどもう終りすれづちもづのれどもと
 さらけそとせぬ人にあつた心な交人
 ともびあひむすづ月日はそへてい
 ちぎくちうはさきいものこもさかり
 きふ人びもやうくあづれゆさちもそ
 ちじつこのさやううりちれば人げとそ
 山ぢの入ねのうぐよそへてもあさぐらまで
 ぞもぐり終ちやうさねあやとふかー中もも
 う時のまも立ちちれそまつり終ぞうり
 うそつりぬて世交よもあやさひてくち終もい

[illegible]

うらとつれごとくおぼへて
 然しか院いんあざねのわくかりまするひ
 よそまゝひぬきもやど敷しきもとさうし給ふに
 されどやびどもあまた人ぞあひ給ふちか
 れうあらともあてやとおぼへつてうへ
 いであづさうおほくもはもあそり
 おちやくんとむらでどぐ一給へ今
 あてされぬけうもつんと人ぞあひつを
 ねんごろ朱産院いんよりおぼへの給ふさう
 なて院いんよりぬきさあんとあひさう
 給ふもせうけいめいとさうし人のあわり

[illegible]

[illegible]

わうーもさーとあーとやいもうろきうー
やゑをありてふす人をも終りぬまはるーづりの
と紙さうちうーゆらんともあうーぎあうー
おの人のすくもあさなぐまでさづりのうろ
ぐへもまひびゆよせ人わいうもくそてまら
くりゆれちぬえさそめてのちよけよちめわ
もてうー^{二条院一}
しうあんちやんちうーひあすずひ終んよつと
よもあうちうあひちんとさうちもあへど
^雲うれーとさうさうてねつりのちやせつそざ
路へ^{かみ}の文書つたの文のひめさてもいひーと

[illegible][illegible]

